

## 地域イノベーション創出 2015in ひろしま ～中国地域の産・学・金・官 88 機関が連携～

地域経済部 参事官（産学官連携・産業クラスター担当）

TEL : 082-224-5760

中国地域産学官コラボレーション会議は、中国地域の産学官連携を推進するために結成された組織体で、中国地域の主要な産・学・金・官のメンバー（88機関）で構成され、平成25年に採択された「未来に向かって、もっと連携しよう！」をスローガンに、様々な産学金官連携に取り組んでいます。

詳しくは、中国地域産学官コラボレーション会議のウェブサイトをご覧ください。

<http://c-collabo.jp/index.html>



その中国地域産学官コラボレーション会議の主催する年に一度のシンポジウム「地域イノベーション創出 2015in ひろしま」が7月16日（木）に広島市中区において開催されました。今月の特集では、今回で15回目の開催となったシンポジウムの様子について、ご紹介します。

当日は開会挨拶の後、基調講演、そして4件の産学連携・イノベーション創出の取組紹介がありました。

- ・開催日時：平成27年7月16日(木)14:00～17:45
- ・開催場所：JMSアステールプラザ 中ホール  
(広島市中区加古町)
- ・参加者：大学、産業支援機関、企業、自治体等  
約240名が参加



## ■開会挨拶



広島大学  
越智学長

中国経済連合会  
山下会長

広島県  
中下副知事

## ■基調講演「イノベーションを生むコミュニティ開発」

### まつもとゆきひろ氏

略歴：(株)ネットワーク応用通信研究所フェロー、楽天(株)技術研究所フェロー、Rubyアソシエーション理事長。Rubyの生みの親。筑波大学第三学群情報学類卒業。鳥取県出身、島根県在住)

(講演概要)

- イノベーションとは何か。辞書などでは「技術革新である」などといわれるが、我々が頭の中で表層的に理解しているモノと真のイノベーションとは若干ズレがあるのではないか。
- 真のイノベーションとは、発明することや技術的な成功では無く、アップル社の iPhone のように、世の中にわかりやすくパッケージとして社会に届けることと気が付かざるを得ない。もっと違う言い方をすると、何か目新しいことを使って市場で成功することを我々はイノベーションだと言わざるを得ない。「あの会社は何かすごい」「あの人は何かすごい」というふうに思ってもらえたらそれはもうイノベーションであると言える。
- Ruby について言えば、元々趣味の延長線で始めたようなもので、失敗するという概念がなく、リスクを低減する措置をしていない。テクノロジーを語る際に、「広く浅く」がよいのか「狭く深く」がよいのかよく言われるが、人的リソースでは Java 等には勝てっこないので、私は、その隣を深掘りしようと考えている。意思決定の早い小さいチームで趣味の延長線上にある趣味的開発で、しがらみから解放され、高いモチベーション



を持って開発を進めてきたが、さらにコミュニティというものが大きな役割を果たした。我々のコミュニティに参加して使ってみようよ、なにか困ったことがあったら一緒にがんばろうよと言う形でどんどん巻き込まれていく。オープンソースだからこそ、「巻き込まれ型マーケティング」で発展してきた経緯がある。

- 巻き込まれ型マーケティングを行うにあたって Ruby の持っている哲学がある。「このプログラムが Ruby である」といった、ひとつのポリシーみたいなのがあって、それが求心力となる。ソーシャルな開発では、そういったポリシーを持ちながら進むということが非常に強く求められる。
- 新しい技術に取り組む場合は、沢山の人が参加するコミュニティを使ってイノベーションを起こす。この方法はオープンソースソフトウェアのやり方だが、もっと広く色んな分野で適用可能ではないかと思う。
- 趣味で始めたものが世界にインパクトを与える、Ruby がまさにそれで、これまで組織の力で社会に影響を与えるというのが、正当な戦術だったのが、インターネット以後では、社会そのものの仕組みが変わってきている。
- 天才のアイデアを組織の力で商品化してそれを社会にデリバリーするという、我々がイノベーションに対して持ちがちなモデルというのは、実は21世紀では成立しない部分がだんだん出てきている。
- 一人の天才は必要ない。アイデアを持っている人がオープンな場で、コミュニケーションを取っていくことが出来れば、大組織のビジネスに関わらなくても社会にインパクトを与えることができる。色んな意味でイノベーションに対するひとつ前の世代の常識が壊れているのではないか。新たなイノベーションはそういう形で現れることを期待する。

## ■産学官連携・イノベーション創出の取組紹介

### ①東京東信用金庫 コーディネーター 桂川 正巳 氏

#### 『産学官金連携による「江戸っ子1号」の開発』

(講演概要)

- 東大阪の中小企業が集まって人工衛星を打ち上げた「まいど1号」をきっかけに、下町の中小企業の活性化を目指し共同で深海艇を作ってみようという提案が始まり。この度、世界で初めて超深海魚類の三次元ビデオ撮影に成功。
- 開発に関わったのは、中小企業6社と、芝浦工業大学、技術指導として海洋研究開発機構・東京海洋大学。東京東信用金庫はプロジェクト管理・技術総括。実験施設提供は新江ノ島水族館と漁船の源春丸、さらにソニーの協力があつた。

- 全体会議を月に2回、毎回2時間ほど開催。学生から社長まで集まって、お互いが議論した。今回のプロジェクトは物を作るという意味よりも、学生・企業ともに、それぞれ自分の秩序と全体とどうバランスを合わせるかということを経験してもらったことがひとつの大きな目標としていた。
- このプロジェクトの成果のひとつとして、海洋に対する一般の関心が高まったということがとても大きい。企業にとっては、下請け体質からの脱出。自社が持っている技術を使った提案ができるようになった。また学生にとっては社会経験の蓄積が非常に大きい。
- 支援組織のトップ同士が定期的に集まり情報共有していたのが、プロジェクトが上手くいった要因のひとつ。周りの支援体制がしっかりしていたことも特徴のひとつ。
- 正直もう一回やれといわれてもそう簡単にはできない。今回はメンバーも良く、たまたまうまくいった。その中で大事だと感じたのは、参加された皆さんが、今、何のために参加しているかという問い掛けに対してしっかりと答えていくことが、全体を総括する立場の大切なことではないか。



## ②近畿大学工学部 ロボティクス学科教授、次世代基盤技術研究所

### 3D造形技術研究センター長 京極 秀樹 氏

#### 「三次元造形技術がもたらすデジタルものづくり革新」

##### (講演概要)

- 3Dプリンターでは、三次元の複雑形状といったこれまでの加工法では作製できなかった製品ができるということ。日本は切削加工が非常に強いが、刃先が届かない内部構造までは加工できない。
- 今、海外では金属材料での造形にとっても動きがあり、ドイツに続いてアメリカなど開発に取り組んでいる。日本にとっても、この装置を作る技術は非常に大切だと思っている。
- ただ、ハードだけ持っていては意味がなく、メリットを出すために設計も変えていかないといけない。設計を変えることにより製品が高機能化するということが大事なことになる。
- 我々は、国家プロジェクトとして、世界最高水準の三



次元積層造形装置の開発に取り組んでいる。高速化に加え、異種金属材料の複層化ができることが特徴。大事なのはユーザーで、その声を取り入れながら改良に取り組んでいる。

- 3Dプリンターをひとつの新しい加工ツールととらえ、大手、中小それぞれどのように使うのか考えてデジタルマニュファクチャリングを認識していただきたい。大学では実際に企業にも入ってもらい、人材育成にも取り組んでいる。

### ③マツダ（株） R&D技術管理本部長 木谷 昭博 氏

#### 『自動車産業に係るひろしま産学官連携の進め方』

（講演概要）

- マツダでは、産学官連携について、共同研究の加速やインターンシップなど、各本部からリーダーを出してもらって推進してきた。更に、マツダ単独では出来ないことを、地域の産学官ネットワークを作って、出来るようにしようということモチベーションに活動を強めている。
- 広島大学とは、包括連携を2011年2月に提携。提携して以降は人文科学系から調達部門まで共同研究が拡がって、最近ではマーケティングの領域にも及んできている。企業は、インターンシップを余分な仕事とネガティブに考えがちだが、ブランドの推進のため「マツダファンをつくろう」ということで、社内を説得した。今年各部門が受け入れに積極的で、受け入れる大学も全国に拡がっている。
- 6月11日に2030年産学官連携ビジョンを公表、自分たちだけでは限りがあり、世界の人が集まるようにしたい、サポートしてくれる人を増やすということでオープンにした上で取り組むこととした。外部の方に評価してもらおうとともに、上手く発信してもらおうということで、マスコミの方など入ってもらうことも考えている。



### ④広島大学 産学・地域連携センター長 橋本 律男 氏

#### 『地域イノベーション創出をめざした広島大学の人材育成』

（講演概要）

- 広島大学では、学部生から社会人までの各レベルに対応した人材育成プログラムを実施。
- そのひとつである、ひろしまアントレプレナーシッププログラムは、現在第1期を実施中。受講生は16名で、職種などは幅広く、70%が起業やソーシャルビジネスといった



新しいことを起こすことを目的としている。

- 地域企業からの声に基づき、若手や中堅クラスの技術者に対して知識習得や意識改革を促す場として、「フェニックス協力会・イノベーション研修事業」も開催。今年度は38機関186名が受講している。
- 又、海外生産を行うものづくり企業の要望に応え、インドネシア工業団地において研修事業を実施。2009年5月以来200名以上が受講、現地での高い評価を頂いている。
- ひろしま医工連携イノベーション事業の中では、人材育成センターによる医工連携を担う人材育成ということで、平成24年から26年までの3年間でおよそ250名が修了している。
- 広島という地にイノベーションを起こすためのエコシステムを形成するには、人材交流の場の形成が必要だが、そのために人材育成のプラットフォームを活用することが有効と考えている。

## ■ポスターセッション

当日は、シンポジウム会場入口スペースにおいて、中国地域産学官コラボレーション会議メンバーの活動を紹介するポスターセッション（展示数25点）も行われた。



## ■閉会挨拶

最後に、中国地域産学官コラボレーション会議の構成機関を代表して、中国経済産業局 畑野 浩朗局長からシンポジウムの総括とともに、閉会の挨拶があった。



---

イノベーションや連携を如何に強めるかということで、皆さん熱心に聴かれました。

残念ながら台風の接近で、交流会は中止となりましたが、このシンポジウムを通じて各団体の交流が深まり、個々ではできない課題の解決、そしてこの広島発のイノベーションを起こすことにつながって行くことを期待しています。

(参考)

来年度のシンポジウムは、岡山県で開催される予定です。